

事業評価シート（平成25年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館教育普及活動推進事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
	目的・目標		事業の概要
市民の知的満足が得られています。		市民の生涯学習に役立てるため、体験学習、各種の講座、野外教育活動等を実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	行事開催回数			単位	回
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	340	340	350	355	
	実績	353	320	356		
活動指標②	指標名	テキスト作成部数			単位	部
	説明・算定式	教育活動用テキスト作成部数				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	150	150	220	250	
	実績	276	183	229		
成果指標①	指標名	博物館行事参加者満足度			単位	点
	説明・算定式	5段階評価のアンケートの平均値				
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	4	4	4	4	
	実績	4	4	4		
成果指標②	指標名	教育活動参加者数			単位	人
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標	6500	6500	6700	6800	
	実績	7078	7327	8203		
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成25年度の主な取組と成果						
<p>人文系・自然系の全学芸員が参画した「平塚学講座」や、プラネタリウム室を利用した地質・考古分野の講演会開催およびコンサート公演等、総合博物館の特性を活かしたイベントにより利用者層を広げました。古代生活実験活動や古文書資料の裏打ち補修等、市民が主体的に行う活動も継続して実施し、利用者とともに調査や保存活動に成果を上げました。また「こどもフェスタ」では継続的に実施される行事の参加者が日頃の知識と技を発揮し、多数の参加者に高い評価を得ました。</p>						
平成25年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他 	各種行事の合計参加者数は増加しており、市民ニーズの高さが読み取れます。一方で多種多様かつ良質な学習機会の提供や参加機会の公平性、内容の稀少性の尊重などを全て満たす必要性は、市場原理になじまない点です。	● 高 ○ 低
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> □ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他 	博物館の教育普及活動では、事業を通して市民と継続的に行う調査は特別展に結実し評価され、市民の貴重な情報として活用されています。博物館文化祭での発表内容の質は年々向上しています。	● 高 ○ 低
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 ■ 業務の執行体制(人員配置、業務分担) □ その他 	各種の行事等に参加した市民が、そこで得た知識や技術で学芸員の事業を助けており、受益者が供益者として活動に貢献する仕組みができています。活動の専門性、魅力の担保のためには、学芸員が分野ごとに必要です。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 業務プロセス改善による効率化の方策 ■ コスト削減の可能性 □ 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) □ その他 	他課との関連業務等で学芸員の事務量は増大しているものの、教育普及活動に参加し知識や技能を身に付けた市民がサポートし、補っています。業務プロセスに市民参加が活用されています。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 継続して行事を実施することは、個々の会員の知識や技能の向上に役立っている半面、行事内容が高度になり新規会員の参加を妨げる要因にもなっています。市民と協働した活動を継続していくためには、単に参加者数の増加のみを求めるのではなく、内容やテーマの見直しによって利用者層の拡大を図る必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 予算額
事業内容		体験学習、各種講座等 教育普及活動の実施	体験学習、各種講座な ど教育普及活動の実施	体験学習や講座、刊行 物発行等の教育活動の 実施、博物館資料の保 全	体験学習や講座、刊行 物発行等の教育活動の 実施、博物館資料の保 全
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	1,617	1,158	787	834
	一般財源	37,533	38,771	39,008	42,720
事業費 (A)		39,150	39,929	39,795	43,554
執行率 (%)		98.73	97.19	98.77	
内訳	職員 (人)	3.05	3.03	2.75	2.75
	再任用 (人)	0.70	0.70	0.80	0.80
人件費 (B)		27,070	26,668	24,579	24,249
フルコスト (A+B)		66,220	66,597	64,374	67,803

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成27年度の取組方針
調査活動や資料整理事業の充実により地域資源情報の収集と蓄積を継続します。また教育普及活動は、継続的に実施する活動を軸にして蓄積された資料や情報の積極的な活用を図ります。特に、講座や体験行事を充実させることで市民の多様化する興味に対応し、利用者層の拡大につなげることによって蓄積したノウハウを有効に活用し、次世代に引き継げるよう努めます。
課長コメント
市民と協働して学習から調査研究まで進める平塚市博物館の運営手法は、開館以来大きな成果を上げてきました。活動の維持継続には、新たな市民層の参加を促進する必要があります。安定した成果の積み上げが可能な、バランスのとれた行事編成を検討します。